

浜遊(はまゆう) タイムス

Vo.1
2013.12.15 発行

発行責任者
天草ビーチコーミング研究
会浜遊(はまゆう)
天草市魚貴町4688-1
武田昌代

発行おめでと~~~~~!!!
あいがと~~~~~!!!

ビーチコーミングって聞いたことありますかぁ~~~?



相棒は「ゴミ拾い」とか言うけれど、私にも言い分がありまして、『流れ着くものたちの物語を聞くことは面白い!』ってことなんです。最初のきっかけはダイビングツアーに行ったときその土地の珍しい美しい貝殻を拾い始めたことなのです。そんな中、天草移住して毎日毎日海を見ているとゴミらしきモノが海から届くのです。お菓子の袋やペットボトル。この子達は大変便利な無くてはならないものとして作られたのにある日を境にゴミと呼ばれるものに変身するのです。そうです、人間が使い終わった時からです。なんか変だなぁ〜っておもいませんか? そんなものを拾いながら「あなたはどこから来たの?」「どんなことしてたの?」そんなおしゃべりを始めるのです。漂着物はとつてもおしゃべりなんです。「私は遠い外国から来たのよ!」「僕は街から来たんだよ。クリスマスのプレゼントだったんだ…もういらないうて…」悲しい物語もありますが(勝手に作ってる気もしますが…)夢膨らむこともあります。去年はヤシの実を3個拾いました。「どんぶらこ〜どんぶらこ」と遠い南の島から私に会うため長い旅をしてきたんです。愛おしいって思っちゃうじゃないですか!それに美しいタカラガイを拾ったりするとラッキー!って思っちゃうし、ストラップにしたり。そんな浜辺での楽しい遊び方を天草の皆さんにお伝えしたいと思い天草ビーチコーミング研究会 浜遊の活動の様子を紙にしてみました。特別名誉会員のお二人からも今回お祝いの原稿を半ば強要し(笑)頂きましたのでご紹介いたします。

天草ビーチコーミング研究会に期待したいこと

有明町 吉崎 和美 藍綬褒章 自然観察指導員

陸域と海域とが接した環境には、平野、湿性地、河口域や海岸、入江、浅海域などが広がり、私たち人間にとって様々な食料を与えてくれる最も重要な自然環境となっています。また同時に、私たちもこの場所を生活の場として最も利用しています。

その中で「ビーチ(海辺)」と言われる場所は、陸域と海域がせめぎ合っている最前線の環境にあり、地球上で動物の種類数が最も豊富で、生物たちの生活を垣間見せてくれる変化に富んだ多様な自然環境にあります。そして近年においては、このビーチ環境に人間の活動による様々な影響を受けた形跡も残されてきています。

私たちがこの「ビーチ」に関心を持ち、様々な人々が多様な視点で、多様な感性で、多様な方法で、多様な取り組みを行っていくことは、私たちの未来のために何かを必ず示唆してくれるだろうと思います。

天草地方は、対馬暖流の影響を受ける東シナ海、そして有明海、不知火海という3種類の海に囲まれ、概要性から強内湾性までの多様なビーチ環境に恵まれた全国的にも得意的な位置にあります。

私もこの魅力ある天草の地に「天草ビーチコーミング研究会」が発足し活動を始めることに、大きな期待を持っている一人であり、この研究会の一人の会員として活動を行っていきたいと思っています。多くの方々にも参加いただき、ビーチコーミングの輪をひろげていきましょう。

打ち上げ貝百景 第一話 炬燵の上の海

山下博由（貝類多様性研究所所長）

貝類の収集家・研究者は、海岸に漂着した（打ち上げた）貝のことを「打ち上げ貝」と言い、その採集を「打ち上げ採集」と言う。今でいうビーチ・コーミングだが、貝の研究者でも若い人はもう「打ち上げ採集」という言葉は知らなかったり、使わないのかもしれない。

「打ち上げ採集」は、もっとも初歩的な貝の採集方法で、この「浜辺で貝を拾う」ということから貝の世界に足を踏み入れる人は多い。私は大分県東国東郡姫島村という島の生まれで、やはり最初はクワガタなんかの好きな昆虫少年だったのだが、小学3年生か4年生くらいに姫島の南浜でチリボタンという貝を拾って、その美しさに感動して貝を集めるようになった。という記憶があつて、確信のある記憶ではないのだけれど、「どうして、貝を研究するようになったのですか」という質問があると、そのように答えている。

小学6年生の時には日本貝類学会に入っていて、いつも浜辺に貝を拾いに行っていた。そうすると、名前の分からない貝の発見があつたり、初めて拾う貝があつたりと、日々いろんなワクワクすることがあつた。ワカメの根元にくっついて打ち上げられたキヌマトイガイという小さな二枚貝をたくさん見つけた時も興奮したなあ。あまり特徴のない地味で抽象的な貝だが、図鑑を使って名前を突き止めた時には大きな達成感があつた。今では珍しくもなんともない貝なのだけれど、当時はそれが広大な世界の神秘の一つに違いなかった。アコヤガイ（真珠貝）は、九州も南へ行けばたくさんいるが、姫島ではかなり珍しいもので、拾った時は大喜びしたものだ。年に1個か2個、いわゆる「無効分散」の若い貝が稀に拾えるだけだった。

それから、浜辺の打ち上げ帯をよく見ると、微小貝と呼ばれる小さな貝が落ちていることに気がついた。シラギク・アラウズマキ・スジウネリチョウジガイ・カゴメチョウジガイ・チャイロフタナシシャジク・クリイロマンジ。冬の夜、炬燵に入って、蛍光灯スタンドの下で、微小貝の入った砂を黒い紙の上に広げ、数mmの小さな貝をピンセットで黙々と拾っていく。小さな貝たちは、その形や名前の美とともに、私の心の中にまた新しい海を作っていくのだった。このシラギクなど6種の貝は、今ではいずれも環境省と日本ベントス学会のレッドリストに入り「絶滅のおそれのある種」になっている。昔は（少なくとも1980年代までは）、ごく普通に拾うことができた貝であるが、とても少なくなってしまった。私は、環境省・熊本県などのレッドリストで、これらの種の解説を書いた。故郷の海岸で貝を拾っていた頃から40年が過ぎて、なんだか思いもよらないことになっている。海の世界は大きく変わってしまった。炬燵に入って、貝の造形美と新発見の喜びにただただ浸っていたころから、ずいぶん遠くへ来てしまったのだなあと思う。

「打ち上げ採集」は最も初歩的な貝類採集の方法であるが、ある海岸の貝類相を知るには、もっとも簡単で手っ取り早い方法である。だから、海の世界の変化も、「打ち上げ貝」を通して知ることができる。今回は、その話をしましょう。

なんと！山下先生が連載で書いてくださるってことで ありがたや～ これを本にしちゃおうか！！



平成25年秋
ヤシの実・ゴバンノアシ



今年の夏
子供たちとのクラフト作り。

このフリーペーパーは不定期になが〜く続けていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。！！興味のある方いつしよに活動しませんか？

By Takeda

会員募集中！

お問い合わせ・お申し込み 090-8767-9722

年会費 1000円

天草ビーチコーミング研究会 浜遊 担当/武田